

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上里小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	ICT機器を活用しながら、授業改善を進めることができた。基礎的・基本的な知識・技能を向上できるようにするため、既習事項の定着のための学習活動の工夫を図る。また、タブレット学習を推進し、個々の児童が自らの苦手やつまずきを理解しながら繰り返し問題に取り組んでいけるような活用方法等を実践する。
思考・判断・表現	「ことばのたね」を常設掲示して、作文教材等で活用できた。今後も継続して使用するために、使用方法や活用方法の共通理解をはかった上で指導することで、語彙力・表現力を高めるようにする。また、思考を可視化して、表現し、考えを伝え合うことで、比較・検討する協働的な学びの場を設定する。
主体的に学習に取り組む態度	ICTの活用や言語活動の工夫、司書教諭との連携を図った読書活動の推進等を通して、学習に対する肯定的な意識を引き続き定着させ、学習活動への意欲につなげていく。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自力解決や考えを共有する時間、振り返りの時間を確保し、児童自らが主体的に取り組む意識を育む。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、学力向上をはかる。 令和5年度全国学力・学習状況調査(国語)で、令和4年度より自校の平均正答率を3pt向上させる。	⇒ 既習事項の振り返りや学習内容を活用・把握したり、読む経験を重ねたりすることができる学習活動の工夫を行う。 また、業前活動の取組と連携させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査(国語)「思考力・判断力・表現力」で令和4年度より自校の平均正答率を3pt向上させる。	⇒ 思考を可視化して、表現し、考えを伝え合うことで、比較・検討する協働的な学びの場を設定する。 語彙表「ことばのたね」を活用し、語彙力・表現力を高める。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査【学習に関する関心・意欲・態度】における「国語の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和4年度の値より3pt向上させた値にする。	⇒ 児童主体の「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を行う。 家庭学習のリーフレットを配布し、月末に振り返りを行い、内容や時間を改善する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和4年度全国学力・学習状況調査(国語)で、「知識及び技能」における自校の平均正答率が令和4年度より下回る結果となってしまった。基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて、学校や学年の実態に合わせた学習活動や支援の工夫が課題にあげられる。	C
思考・判断・表現	令和4年度全国学力・学習状況調査(国語)で、「思考力・判断力・表現力」における自校の平均正答率が「読むこと」において全国正答率を上回ることができた。国語科にとらわれず、教科横断的に指導の工夫をすることが必要である。	B
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「学習に関する関心・意欲・態度」における「国語の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合が県・全国の平均を上回った。学年ごとにみると、ばらつきがみられることが課題にあげられる。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析		
全国学力・学習状況調査結果		国語: 算数:
知識・技能	全国の平均正答率と比べて、国語と算数ともに、下回る結果となり、課題がみられた。特に、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」が、全国の平均正答率と比べてその差が大きいという結果であった。国語については、漢字の学習に課題がみられるので、繰り返したり積み重ねたりできる学習を行うようにしていく。算数では、「図形」の問題で全国平均正答率とほぼ同じ数値となったが、昨年度と同様、短答式の問題で課題がみられた。	
思考・判断・表現	国語では、特に「読むこと」について、全国の平均正答率を上回った。また、算数「データの活用」については、複合問題に課題がみられ、問題の趣旨を読み取り、適切に選択することが今後の課題としてあげられる。さらに、国語と算数において、記述式の問題において全国と比較しても無回答率が高いので、問題を見比べたり見直しをもって取り組んだりして、できそうな問題から取り組むなどの方策を行っていく。	
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習調査の学校質問紙による調査では、「〇〇の勉強は好きですか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、国語と算数ともに、県・全国の平均を上回っている。引き続き授業改善に励み、さいたま市学習状況調査の際に、前年度から比較してさらに値を向上できるように、より一層、子ども主体となるような学習活動の工夫に努める。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語では、「話すこと・聞くこと」においては市の平均を3pt以上、上回っていた。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」において課題がみられた。算数では、「数と計算」「図形」「測定」に課題があり、基礎的・基本的な知識をさらに定着させることが重要である。どちらも無解答率は市の平均より低いものが多く、意欲的に取り組むことができている傾向にある。	小4	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に課題がみられた。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」にておいては、いずれも市の平均を3pt以上、上回っている。 算数では、「数と計算」「図形」「変化と関係」について市の平均を下回っているため、基礎的・基本的な知識の定着を図り、活用させる力へと発展させる必要がある。
小5	国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」、社会「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」、理科「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域において、市の平均を下回る結果となった。 算数や社会「地理的環境と人々の生活」、理科「生命を柱とする領域」では市の平均を上回っており、教科ごとに重視すべき領域に留意しながら指導や支援の工夫が必要である。	小6	国語「書くこと」や社会「歴史と人々の生活」において、市の平均を上回った。国語や社会の他の領域、算数や理科では、市の平均を下回る結果となり、より一層の授業改善や工夫が必要である。 正答率が高いものは無回答率が低く、正答率が低いものは無回答率が高い傾向にあるので、基礎的・基本的な知識の定着や、既習事項を生かして課題解決する力を育むことが課題にあげられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし